（別紙4）

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470200946		
法人名	社会福祉法人　青山里会		
事業所名	小山田グループホーム		
所在地	三重県四日市市山田町5516－1		
自己評価作成日	平成30年6月20日	評価結果市町提出日	平成30年9月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470200946-00&PrefCd=24&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成　30　年　7　月　19　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個々の性格や好みに合わせた食事の工夫や介護を行うようにしている。
法人の敷地が広大であるために余暇活動など有効に活用している。
月２回ではあるが音楽アクティビティーも楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

広大な敷地に総合病院や特養、老健と併設されているグループホームであるので、グループ内の協力連携の安心感がある。特に重度化や終末期に連携対応出来るのが利用者と家族に支持を得ている。合理的で具体的な考えの下に作成された理念「職員が自己研鑽に努め、利用者が出来る限り自立した生活を送ることが出来るよう、利用者の個性を十分に勘案したケア計画を元に適切な介護に努める」を基に適切な介護をしている。利用者の思いや昔の馴染みまで介護計画に反映して実践していることが、職員と利用者の会話も多く、笑いが絶えない日常光景となっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時や職員会議などで理念の共有を図るよう心がけている	「職員が自己研鑽に努め、利用者が出来る限り自立した生活を送ることが出来るよう、利用者の個性を十分に勘案したケア計画を元に適切な介護に努める」が理念である。平成12年12月の創業時に現管理者が考えたものである。理念通りに利用者の個性を十分に勘案したケア計画の下で、利用者は思い思いの生活を送っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物などで外部に出かける、又、ボランティアやインターンシップなどの受け入れなどで他社との関りを持つように努めている	グループ内施設が広く近隣の住宅地が離れているので近所付き合いはないが、グループの敷地内での交流をしている。特養等他施設に移った方に会いに行ったり、近隣住民から自家栽培の野菜の差し入れがある。また、中学生の職業体験を受け入れたり、保育所や高校からボランテイアで音楽の演奏で交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、地域の情報や要望など参考にしている。ただし家族参加が薄いのが現状である。	2ヶ月に1回開催しており、参加者は自治会長、老人会会長、行政、民生委員、包括支援である。家族への参加も呼びかけているが参加が無い。ヒヤリハットも含めて状況報告が行われている。参加者からは地域との関わり方などの意見もあり、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告や相談が主である	運営推進会議に参加しているので、現状を良く理解してもらっている。その時に意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行う事が無い。またそうではないかと思われる事案についてはミーティングを行い問題解決を図っている。ただし、玄関は施錠しているが内外からサムターンで開閉が自由にできる仕組みの物である	身体拘束防止委員会が中心となって職員の理解促進を行っている。外部からの不審者侵入防止のため玄関は安全上施錠している。本部研修も今年から行われたので参加職員による伝達研修している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご案内などは行っているが出席率皆無に等しい。訪問時やTELなどでの相談苦情については必ず記入し共通認識をもち出来るだけ早めに回答するようにしている	管理者と職員は、利用者や家族の意見や要望を運営に反映する努力をしている。3年前より苦情・要望：依頼確認帳を作り意見を聞いたことを記入している。家族が同伴出来ない受診に職員が同伴したり、ご飯を食べ過ぎる利用者に少なめに提供したりと運営に反映している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を日時を決めて開催している。その都度意見や提案が出せるよう一人で判断しないようにしている。	職員が全員で意見を交換する機会がなかったので、1年前から全職員参加の全体会議を月1回行う事にした。全員参加が出来なかったため、1年で2回の開催であった。	施設としては職員の意見交換が出来る貴重な機会と考えており、継続したい希望がある。今後は全員が参加し易い時間帯を考慮し、継続して貰いたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族又はなじみの人の行き来については、基本的に了解しているただし家族からの希望で合わせないで欲しいという方につては理由の確認などを取っている。	家族が毎週土曜日に定期的に馴染みの場所に連れて行っている利用者もいる。馴染みの美容院に利用者は行ったり、出張美容を利用している利用者も馴染みになったり、温泉祭りに昔の馴染みが来訪して会うなどの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や日常の会話などから本人の意向に気づき、スタッフで共有している。	思いや意向を把握した中では、編み物や歌が好きな事等をケアプランに記入して支援している利用者がいる。歌が好きな人が自然と口ずさめるように機会を捉えて歌謡曲のCDをリビングで流している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	23番を踏まえて、GHでの様子をお伝えしながら進めている	ケアマネ兼務の計画作成担当者が職員の意見を吸い上げて作成している。担当制ではないので職員全員が利用者全てを看ている。歌やキャッチボールなど具体的な計画を作成している。必ず、家族に確認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は大切にしているが、ご家族の意向によって協力医療機関へ移り変わるケースが多い	かかりつけ医の受診は本人及び家族の希望を尊重しているが、1名以外は協力医療機関がかかりつけ医となっている。グループ敷地内でもあるので安心感もある。受診は家族受診が基本だが、職員と受診することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議やスタッフ会議などでも対象者がいなくても話題に出すようにしているが実際には、医療スタッフのいるところへ移動されるケースが多い	入居時に重度化や終末期の方針を説明している。早い段階から利用者にとって最良の方針を本人・家族と話し合い共有し、必要な場合は病院、特養、老健の紹介も含めて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での年3回ほどの訓練でうち1回は地域の方にも参加して頂き行っている。 単独では連絡訓練年2回・避難訓練・防火訓練を予定し開催	避難訓練、防火訓練、夜間想定で9月の定期訓練と不定期訓練を会わせて年5回行っている。飲み水と食糧の備蓄が3日分はある。施設外の避難場所の近くに浄化槽や温泉タンクがあるのを心配するなど、施設内外を良く把握して災害対策や訓練に役立てている。	具体的な防災行動マニュアルを作成してないので、職員全員がそれぞれの災害時に同じ行動が取れないことが想定される。早急に具体的なマニュアル作りを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	決して命令口調や子ども扱いしないような対応や声掛けを心掛けて、気づいた時にはスタッフ同士声を掛け合うようにしている。また、そのような態度や口調でかかわるとご本人がイライラされるので間違いに気づく	健常者と同じように言葉掛けや対応を心掛けて、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。着替えやトイレを要する時にはささやく配慮もある。丁寧な言葉使いをする職員が多く見受けられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材に準備やメニューなど会話をもちながら考える。また、糖尿などの持病の方もいらっしゃるので味付けなどは途中で鍋を移し替えたりしながら作るものもある。おかゆの用意ができるようジャーも小さいものを用意している	衛生管理上、職員の検便が行われている。職員が交代で料理を作って提供しているが、お米磨ぎを手伝っている利用者もいる。誕生日にちらし寿司や七夕にそうめんのかき揚げと行事食も豊富である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	中にはリハビリパンツは履いている方がいるが、トイレ誘導している。	排泄表から排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。オムツ使用は無いが、リハビリパンツとパット対応がほとんどである。4名が布パンツで自立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を目指しているが2日置きくらいが主流になっている	方針としては毎日入浴可能としているが、職員の不足から2日に1回となっている。以前のように毎日、入浴でできる体制に戻すための人員増強を検討している。足湯にしたり、菖蒲湯・柚子湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ゴミ出しや残飯捨てなど日常的に行っているものと食材の買い出しで時折でかける、受診や理美容に定期的に出かける。	日常的に散歩やゴミだしで近隣には出掛けており、散歩は6名がしている。2日に1回の食材の買出しに付き合う利用者もいる。日向ぼっこは全員でしている。家族協力では定期的に外食や美容院に出掛ける利用者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には、共同作業で制作した季節の風景のモニュメントを飾っている。リビングにはTVを置かず、アクティビティールームでTV鑑賞できるようにしている。夜には真っ暗にならないリビングでアップライトと取付明るさを取っている。	各部屋の近くにトイレがあり使い易い。利用者が過ごす時間が多い食堂の天井は高い吹き抜けとなっており、天窓からの光も拡散して明るい雰囲気である。テレビが置かれている前のソファーは対面で向かい合って話せる工夫がある。人に聞かれたくない話は廊下の突き当たりに腰掛けて話せる場所も作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力本人にとってなじみのものを用意してもらうようにしている	収納には十分なクローゼットがある。使い慣れた家具を持ち込み利用者の思い通りに小物を置いたり、写真を飾ったりしている。心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			